

第九十九回 楽々俳句会(ちば)

令和五年九月十四日(日) 晴

吟行：なし 十時集合 投句三句 五句選

句会場：千葉市民活動支援センター 「席題：朝顔」

武久 朝顔や今朝もトーストハムエッグ 成子

久 枝豆に無口の口を開きけり 洋子

久 西瓜抱き総武本線がらんどろ 成子

久 朝顔やけふ一日の美をきそう 弘子

久 種こぼし新たな門出牽牛花 武彦 牽牛花は朝顔の事

久 秋の蝶風に乗りかえ風に消ゆ 宣子

久 朝顔やラジオ体操第二まで 武彦

久 朝顔や無人となりてあの家も 育子

久 爽籟や一番船の大漁旗 宣子

久 待つ人に蜻蛉群れたつシャトルバス 今日子

久 すがり来る朝顔の蔓雨戸にも 恵美子

久 朝顔の水当番や山羊啼けり 久登

久 朝顔の行方を探る鳶の先 ミチ子

久 吊革にウトウト揺れし秋暑し 信雄

久 朝顔の折目正しき白さかな 洋子

久 朝顔の観察日記十二色 宣子

久 星月夜船より望む街の灯よ ミチ子

久 2どや顔の甘藷揃ひぬ道の駅 恵美子

久 1朝顔の旅の帰りの喫茶店 育子

久 1あの世界でも蝉時雨聞く卒寿かな 利太郎

久 1ひと休み初秋風の吹通 豊隆 吹通し

久 3野島崎海に浮かべし弓張月 豊隆

久 2野に出れば野分けのあとの草倒れ 弘子

久 2処暑の夕「カナカナ」聞こゆバス停前 今日子

久 処暑・カナカナ ともに秋の季語 かなかなにする

久 2しおれきる朝顔夕に生き返る 恵美子

久 2異国語の混じる電車や夜学生 粹歩 飛び交ふ電車

1 鰯引く浜はかがやく白き足 ミチ子

1 白き足砂を踏ん張り鰯引く

1 朝顔の菑奔走なだめけり 園子

1 朝顔やたぶん無かるう桐の下駄 武彦

1 朝顔と桐の下駄の取合せがかけ離れている 今日子

1 水瓶に浮かぶ朝顔二度咲けり ガラス瓶浮かぶ・・・

1 浮かぶだから水は要らない 粹歩

1 朝顔の萎みの上に蕾かな 信雄 植木染め

1 あさがおの蔓また絡まりて植木染

1 かなかにや淡きアーチと雨後の森 成子

1 舳い舟いつも揺れたるねこじやらし 久登

ねこじやらし何時も揺れたる舳い舟

1 暗闇に異彩漂わす月下美人 園子 漂ふ

1 朝顔や先へ先へと蔓競ふ 久登

1 サイレンの音に怯えし街暑し 園子

1 暑き日々釣瓶落しといへどまだ 信雄 暑き日々 釣瓶落し

曇り空ドロンの音聞く酔芙蓉

曇り空低きをドロン酔芙蓉

路地裏の縁台将棋秋暑し

よくある光景 新たな発見が欲しい

朝顔の犬小屋飾り主安堵

梨棚の隙より覗く青天井

朝いちの庭いつぱいの朝な草 朝顔の別名

孫と行くセブンイレブン月明かり

朝顔や今日咲いた数記録する

朝顔や昨日五個今日三個

参加者 成子・洋子・恵美子・育子・ミチ子・園子・宣子・弘子

利太郎・粹歩・豊隆・信雄・武彦・久登

投句 今日子 欠席 静代

予定

十月十一日(水) 百回

十一時三十分京葉線海浜幕張駅集合時 美浜園吟行

十三時から松籟亭にて句会 十六時まで

十一月九日(木) 九時千葉神社集合 十時句会 活動センター十二月十四日一

十二月十四日(木) 九時登渡神社

十時参集殿 句会